

3129 年賀状：マッターホルンのご来光

いろいろコレクションの中から選択。心模様 3128 の続き。

人間夢中になると、見えなくなるものらしい。この作品が残った事に感謝。
何とも有難い。自然を相手にしていると、作品として残るのは、ラッキーがないと出来ない。
また一つ、鍛えられ、心の財産が増えた。

なぜ、山に登るのか、私は登山家ではない。危険を冒してまで、なぜ？
そんなに価値のあることなのか。そんな問題ではない。
『山があるから』わかるような気がする。

そのとき、はるか遠方に一筋の飛行雲、ここはスイス、早朝の訓練だろう。
場所によっては、この飛行機が作品創作の邪魔をする。その後、次々と何機も目撃。
午前7時までの光、ともかく、やわらかい。

山になぜ登る。山があるから。それだけではない、言葉では表現し難い。
本人にしかわからない。実に感激の瞬間があるはず。汗を流して苦労したからかも知れない。
その苦労に比例して、感激度が増すように私には思える。たかが、一枚のご来光。

中途半端ではない、真剣勝負。命までかける作品がある。それが生きている証し、
と考える人間もいる。生き方、考え方、価値観、感性は様々。
松尾芭蕉に関心を持ち、今また、関心のあった良寛さんに興味をもった。

良寛さんが清受食文、食を受ける『五観の文』の中に、受食の大切さを説いておられる。

一つは、食物が作られるまでの苦労の並々ならぬこととおもい、
二つは、食物の由って来たる処をおもい、三つは、自分が勉めているかなまけているかを
計って供養を受け、四つは、修行のため痩せた肉体をいやさんがため、
五つは、身を保って仏道の修行を成就させんがために、と

受食の大切さを説いておられる。俗人の日常とは違うかも知れないが、心したい。

これは、自分への鼓舞、腹のたしになる。身体のたしになる。心のたしになる。

ひとりよがりだろうが、人様の心のたしになれば嬉しいのだが・・・

久楽には、この自然の微笑みは、心の財産。

この素晴らしい自然や地球に感謝、心もなごませてくれる。

強力なエネルギーも得ている。勇気づけられ、生命力も注入してくれる。元気発信。

形見とて、何か残さむ、春は花、山ほととぎす、秋は紅葉 <沙門良寛>

地球ひとり行脚、50歳からの夢挑戦。私の生き甲斐であるのは事実

この生き様、夢と元気と文化の発信。私のライフワーク、継続していけたらなんと幸せ。

夢は探すのではなく、夢は創るもの。自然に愛を。

生きた証しとして、

できる時にできる事を。今は、夢挑戦続けられることを願うのみ。

山はみどり、野に花、人にはこころ。

25年間も続いた。夢は大きくだが、当面80歳まで。苦節30年という言葉もある。

人生まだまだ。先のことは考えない。今に全力投球。倒れるなら前に。

いろいろな試練、四苦八苦が前進を邪魔するだろうが、なんとか乗り切りたい。面白く創意工夫して。

温故知新は大切だが、過去は変えられない。未来は変えられると信じた。

昨今、運不運、定めがあるのかもしれないと思うようになった。歳をとったという証拠なのか。

私は、最後まで抵抗したい。やんちゃで、頑固な頑張り屋さん。

近所のおばあさんからよく言われたものだ。ニックネームも「ガンちゃん」

来年は変化の年。人生第四半期に突入する。どんな人生が待っているかでなく、久楽流の人生の構築。

一歩、一歩、蝸牛、登らば登れ… 今に全力投。あとは、ケセラセラ。

ホームページご覧いただきありがとうございました。

夢絵作家 久楽迎古

くらく げぶる